

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3690600055 | | |
| 法人名 | 有限会社 北條ホスピタルサービス | | |
| 事業所名 | グループホーム北斗 | | |
| 所在地 | 徳島県三好市池田町マチ2526-10 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年7月16日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年9月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、JR阿波池田駅から徒歩5分の距離にあって、交通の便が良い場所にあります。近所には小さな神社や公園もあり、散歩コースになっています。例年なら、お花見や遠足など外出の機会も多くありますが、コロナウイルス感染症予防のため、昨年から全て中止しています。その分、節句行事などで屋内でも季節を感じて頂けるよう工夫しています。又、コロナ以前は、ご家族や友人・知人の来訪も多くありましたが、面会制限により減少しています。そのため、年4回発行している「北斗だより」を通じて入居者様の近況報告を行い、ご家族様に安心して頂けるよう努めています。

その他に、入居者様やご家族様にとって最も大きな安心感は、協力医療機関である病院に隣接しているという点です。日常の健康管理や相談、緊急時の対応も可能であり、安心して生活することが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心地に位置している。近隣には、駅や商店街、公園などがあり、地域住民と馴染みの関係を構築する場となっている。敷地内には、同一法人が運営する医療機関や他サービス事業所が併設し、日ごろの支援や各行事、避難訓練等の機会に、交流・連携を図っている。事業所内の全職員で話しあい、見直した、“その人らしい生き方を支えます。人生の先輩として尊敬します。家族や地域との絆を大切にします。”という3つの理念を掲げている。理念にもとづき、利用者一人ひとりのできること・やりたいことを大切に支援に取り組んでいる。併設の医療機関と連携を図り、24時間対応可能な医療体制を整備している。また、事業所内の勉強会は、毎回担当職員を変更し、資料作成・発表を行うなど、職員の意欲向上やサービスの質の向上に向けて、積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | その人らしい生活の継続を目指すと共に、個人の尊厳を守り、家族や地域との絆を大切にするという3つの理念をミーティング等で常に確認しながら提供をおこなっています。 | 事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げている。職員間で話しあい、理念を見直している。理念を事業所内に掲示したり、申し送り時に振り返ったりして、職員間での共有化を図りつつ、日ごろの実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナウイルス感染症予防のため、地域の行事は中止となり、入居者様の外出も控えため、交流する機会はほとんどなかった。 | 事業所では、利用者とともに、近隣の神社のお祭りや認知症カフェに参加するなど、地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、職員が地域の清掃に参加したり、神輿の来訪を受け入れたりして、交流を継続できるよう努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議への地域の方の参加を休止しているため、認知症について知っていたく機会が持てなかった。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウイルス感染症予防のため、外部からの参加を休止し、2ヶ月に1回、経営者・管理者・スタッフのみで開催した。1年間のまとめを行った際に、その内容を外部の委員に郵送して意見を頂いた。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所の状況や取り組み、感染防止の対応等について、職員間で協議・検討している。協議した内容は、各委員へ伝え、助言を得ている。出された助言等は、サービスの質の向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 人手不足等で事業所の運営に行き詰まった時、広域連合に電話や直接訪問して相談し、指導・助言をいただいている。 | 職員は、定期的に、市の担当窓口を訪問し、事業所の取り組みや申請状況について報告している。電話等でも連絡を取り合い、制度の詳細や運営面等に関して相談するなど、協力関係を築くよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催している。また、年2回、身体拘束をテーマにして勉強会を開催し、職員の意識向上に務めている。 | 事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の内容や弊害等について、職員間での共有化を図っている。年2回の拘束に関する勉強会は、職員の中から担当を決めて、資料作成・発表等を行うことにより、理解を深めつつ、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内勉強会において虐待について学ぶ機会を設けている。また、職員のストレスチェックも実施し、対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会において、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。又、新しい職員にはその資料をいつでも閲覧できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に、事業所の特色や重要事項および費用の内訳について入居者様やご家族様に説明を行い、納得して利用して頂けるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナウイルス感染症予防による面会制限や運営推進会議への参加休止により、ご家族様と会って話す機会は減ったが、電話にて要望や意見をお伺いし運営に役立てている。 | 事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等の意見は、来訪時等に聞き取っている。感染症の流行下においても、ガラス越しに面会を行えるよう工夫するなど、利用者や家族等の希望を運営面に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議やカンファレンスにおいて、運営に関する職員の意見を聞くようにしている。そこで出た意見や提案を、運営に反映できるよう努めている。 | 管理者は、月1回の職員会議や日ごろのミーティング等の機会に、職員の意見や提案等を聞き取っている。個別面談も実施し、意見等を聴取しつつ、目標達成に向けた助言等も行っている。聞き取った意見等は、運営面に反映し、職員の意欲向上につなげている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が安心して働けるよう、職場環境の向上に努めています。休みの希望は勤務表作成前に提出してもらい、希望に沿って休めるようにしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格取得のため、研修のための休暇確保や費用補助を行っています。しかし、コロナウイルス感染症予防のため、事業所外の研修には参加出来ていない。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的に同業者と交流する機会は設けていない。また、昨年より事業所外の研修は自粛しているため、交流する機会はほとんどない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の不安を取り除くよう、何事にも傾聴・共感し寄り添うよう努めている。ご本人の思いを理解し安心して頂くことにより、良好な関係づくりを心掛けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時に、ご家族からの話を十分にお伺いし、その思いを受け止め、サービス提供に反映させることで信頼関係を構築できるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族の要望を伺いながら、必要な支援を見極め、医療機関とも連携しながら対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員も一緒に日常生活を送ることで、暮らしを共にする意識をもち、一緒にできることはして頂くようにして、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族と共に入居者様を支えていくことについて、相談しながら介護するようになっている。又、日頃より連絡を密にして、家族とともに支えるという思いを共有できるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会制限により、家族・友人・知人とも自由に会えない状況が続いている。しかし、お便りや写真をお送りして入居者様の近況を伝え、関係が途切れないよう配慮している。 | 事業所では、利用者がこれまで培ってきた関係性の把握に努めている。家族等の協力を得つつ、馴染みの理・美容院や墓参りに出かけるなど、関係継続に努めている。感染症の流行下においては、年賀状や手紙等のやり取りを支援するなど、関係が途切れないよう工夫している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の関係を見極め、一緒に食事や雑談が出来るよう職員が調整役をするとともに、日々心身の状況や感情の変化に気を付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された後でも、ご本人の様子やご家族の相談を受けられるようにその後の状況を確認している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は、入居者様との日々の関わりの中で、言葉や表情からその意思を推し量ったり、カンファレンス等で気付いた点について話し合い、その人の希望の把握に努めている。 | 職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等を把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合は、家族等からも聞き取りつつ、職員間で協議し、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に、ご本人やご家族から自宅での暮らしぶりや様子を伺い、これまでの生活歴・好きだったこと・昔していたこと等をお聞きし把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録や申し送り等により、心身の状態や有する能力等の変化に注意している。日々の生活の中で出来ることや得意なことがあれば、一緒にやってもらっている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人及びご家族の要望を確認し、介護計画を作成している。又、随時、改善点等をカンファレンスで話し合い、個人に即したケアプランの見直しを行っている。 | 事業所では、利用者や家族等の意見をふまえた介護計画書を作成している。本人のしたいことや得意なことが継続できるよう、計画に取り入れている。“課題整理総括表”等を活用し、定期的なモニタリングや見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の状態を個人記録や業務日誌等に記載し、申し送り時に情報を共有してケアにかかしている。又、個人記録をケアプランの見直しに利用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族のニーズにこたえ、ご家族の宿泊受け入れや緊急時の通院介助・買い物代行などの支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議で地域情報は入らないし、オレンジカフェにも参加出来ない状況が続いている。しかし、市報やケーブルテレビのニュース等を一緒に見て地域を身近に感じてもらうようにしている。訪問理容は1回/2ヶ月利用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。又、協力医療機関における受診結果等は、後日、ご家族に報告している。 | 事業所では、利用者一人ひとりの希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関と連携し、毎日、看護師が体調管理のために来訪したり、緊急時に対応できるよう体制を整備したりして、利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置して常に入居者様の健康状態をチェックし、状態に応じた支援を行えるようにしている。又、受診記録等で入居者様の健康状態を誰でも確認出来るようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との連携は、主に看護師が窓口となり実施している。入退院後のサービスにも混乱がおきないよう、病院スタッフと連絡調整している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居者様が重度化した場合における対応の指針を作成し、契約時に説明を行い同意を得ている。ご本人の気持ちを大切に、ご家族と話し合い、ご本人が安心して終末期を迎えられるよう、事業所としての方針を示している。 | 事業所では、重度化や終末期における事業所の指針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、協力医療機関等の関係者と話しあい、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入居者様の急変や事故発生時には、隣接している協力医療機関に連絡し、24時間いつでも対応してもらうことができる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 非常災害対策マニュアルを作成し緊急時の対応を定めている。避難訓練は2回/年定期的に実施し、入居者様も参加して避難方法や避難経路を確認している。地域の協力については、コロナ以前の運営推進会議において相談した。 | 年2回、消防署や地域等の協力を得て、避難訓練を実施している。日中・夜間の火災等を想定し、避難経路の確認等を行っている。同一法人が運営する医療機関とも連携し、地震想定訓練や炊き出し訓練にも取り組んでいる。ヘルメット等の備蓄も整備して、災害時に備えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様一人ひとりの人格を理解して適切な声掛けを行い、プライバシーや誇りを損ねない対応を行うことについて、カンファレンス等で話し合っている。 | 職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切に考え、尊厳とプライバシーの確保に努めている。日ごとの支援のなかで、言葉づかいや誘導時の声かけ、入浴時の対応等について配慮している。カンファレンス等で、職員間での意識の共有化を図っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様の経歴を考慮し表情をみながら思いを感じ取ったり、わかりやすい表現での説明や簡単な選択が出来るような声掛けを行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 規則正しい生活を送っていただくため一日の流れはあるが、その中で一人一人のペースに合わせた対応を行い、職員の都合を優先することがないような支援を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の着替えは、基本的に本人の意向に任せてあるが、自己決定がしにくい方は天候・行事・外出等に合わせて職員と一緒に選んでいる。又、化粧品等は、ご家族の協力を得て、使い慣れたものを届けてもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 隣接する病院で調理されたものを運び、盛り付けと刻み・ミキサーなどの対応を行っている。又、入居者様の能力に応じて机拭きなどの手伝いをお願いしている。 | 食事は、併設の医療施設で調理したものを、事業所内で盛り付け等している。定期的に、おやつづくりを利用者と一緒に行うなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。利用者一人ひとりに着目し、机ふきなど、役割を担ってもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者様の状態に応じて、食事形態を変更して対応している。食事・水分の摂取量は、その都度記録し把握している。又栄養面の問題等については、協力医療機関の栄養士に相談している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアの声掛け・見守りを行っている。自分で出来ない人は職員が介助してケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜誘導することでトイレで排泄出来るよう支援している。又、個人のプライバシーやプライドを守るために声掛け等の配慮をしている。 | 事業所では、チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。個別にあわせた誘導・介助方法を記録し、職員間で共有化を図っている。また、トイレの場所がわかりやすいよう、表示を工夫するなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックを行い、便秘がちな人には牛乳を勧めたり、主治医に相談して緩下剤を処方してもらい調整している。又、体操などの適度な運動や、水分摂取を促すなどの対応を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は2回/週を目途に、ご本人の体調や希望を伺いながら対応している。個浴と機械浴があり、入居者様の身体状況に応じて利用している。 | 事業所では、週に2回は入浴することができるよう支援している。浴槽にひばの木を使用し、森林浴の気分を味わうことができるなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。また、機械浴も整備し、利用者一人ひとりの心身状況に配慮しつつ、安心して入浴することができるようにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中はなるべく体操やレクリエーション等に参加するよう声掛けしている。しかし、無理強いせず、希望があれば入室で休んでもらっている。眠剤の服用は、主治医と相談し必要最低限にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様一人ひとりの薬剤情報を一冊のファイルに綴じておき、スタッフがいつでも確認出来るようにしている。処方に変更があれば、看護師より内容や注意点等について説明し情報を共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様の経験や能力の把握につとめ、その人にあった仕事をして頂き、活気のある毎日が過ごせるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ以前は遠足や散歩等で外出の機会も多くあったが、昨年より入居者様の希望にそって外出することが出来なくなっている。 | 事業所では、利用者一人ひとりの希望に応じて、美容院や近隣の喫茶店に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内を散歩したり、利用者と一緒に花壇の世話をしたりするなど、少しでも外に出ることができるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | Bユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | コロナ以前は、外出時に職員と一緒に買い物を楽しむ機会もあったが、最近は外出の機会がなく買い物は出来なくなっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は、希望時に職員が仲介してかけ、事務所で話をしてもらっている。又、年賀状は、その人の能力に応じて出来るだけご本人に書いて頂くようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 県産杉で作った建物の利点を生かし、落ち着いた雰囲気づくりを心掛けている。又、四季折々の掲示物や生け花などにより、季節感も味わえるようにしている。 | 共用空間は、床や壁等に杉を使用し、温かみを感じることができる。壁面には、利用者とともに制作した季節の掲示物等を飾り、四季を感じることができるようにしている。ソファや畳のスペースも設置し、利用者一人ひとりが好きな場所で過ごすことができるよう工夫している。また、感染防止のため、換気等も心がけている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにはソファを置き、入居者同士や職員も交え、いつでもくつろいだり、談笑したり、休息出来るよう環境を整えている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、ご本人やご家族と相談して馴染みの物やテレビ等を持ち込んでもらい、写真を飾ったり、好きなものを置いたりして、居心地よく過ごせるようにしている。 | 居室には、利用者にとって馴染みのある写真や家電等を持ち込んでもらうことで、居心地良く過ごすことができるようにしている。家具の配置等を工夫して、安全面にも配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 了解を得て居室の入口に表札を掲げたり、トイレの入り口を分かり易く表示して、自立した生活が送れるよう支援している。又、一人ひとりの行動パターンを把握して、危険がないように配慮している。 | | |